

－ 医学系研究に関する情報及びご協力のお願い －

当院では、以下の医学系研究を実施しております。この研究は、検案・解剖業務の過程で得られた情報をまとめることによって行います。この研究は、当院の倫理委員会の承認を得ており、文部科学省及び厚生労働省が策定した「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を守り実施されます。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

〔研究課題名〕

AH1pdm09 感染症による急死例についての解析

〔研究実施機関〕

東京都監察医務院、国立感染症研究所

〔研究代表者〕

濱松 晶彦

〔研究の目的・方法〕

平成 21(2009)年に新型インフルエンザとして流行した A 型インフルエンザウイルスは、現在流行から年月が経過し、季節型インフルエンザ AH1pdm09 として認知されています。しかし、当院では近年 AH1pdm09 感染により、びまん性肺胞傷害が確認される急死例が増えています。AH1pdm09 感染とびまん性肺胞傷害にはどのような因果関係があるのか解明することは、その治療、救命に繋がります。このような解析は、多数の突然死例を扱う都内唯一の機関である当院、および共同研究者の国立感染症研究所において初めて可能と考えられます。

肺、気管支、咽喉頭、脳、髄液、心臓、心嚢液など、症状や所見に合わせて臓器を切出し、国立感染症研究所にて、インフルエンザウイルスの免疫染色、RNA・DNA 検出、解析を行います。また、サイトカインの解析には、血液中や組織からサイトカインの RNA または DNA を検出し、濃度を検量します。対象例の年齢、性別、既往歴、生前の症状、主な剖検所見について、検案調書および剖検記録より抽出します。

〔研究の対象者〕

平成 21(2009)年 4 月 1 日から、平成 33(2021)年 3 月 31 日の間に行政解剖されたインフルエンザ感染例、および組織所見でびまん性肺胞傷害を示す場合

〔個人情報の取扱い〕

利用する情報からは名前や住所など個人を特定できる情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を特定できる情報等は利用しません。

〔研究協力の任意性と撤回の自由について〕

この調査への情報の使用をお断りになっても、不利益を受けることは全くありません。その場合は、下記の責任者までお申し出ください。

〔問い合わせ先〕

東京都監察医務院 濱松晶彦

〒112-0012 東京都文京区大塚四丁目 21 番 18 号 電話 03-3944-1481